

北海道 道央地区勤労者山岳連盟

第 47 回定期総会 議案書



日時 : 2024年3月5日(日)

10時~15時30分

会場 :かでの27 520 研修室

(札幌市中央区北2条西7丁目)

北海道 道央地区勤労者山岳連盟

第 47 回定期総会 式次第

1. 開会の辞 10 時

2. 会長あいさつ

3. 議長団選出
 - ・ 資格審査委員、選挙管理委員の選出
 - ・ 総会成立の報告(資格審査委員会)
 - ・ 理事立候補受付開始(選挙管理委員会)
 - ・ 議長団選出

4. 議事開始
 - ①2023 年度活動報告
 - ②日本勤労者山岳連盟 第 36 回全国総会報告
 - ③2023 年度決算報告および監査報告(別紙)
 - ④2024 年度活動方針(案)
 - ⑤2024 年度予算案提出(別紙)
 - ⑥質疑応答・討論
 - ⑦理事立候補の受付〆切(選挙管理委員会)

昼休み 11 時 40 分～12 時 25 分

 - ⑧討論再開 12 時 30 分
 - ⑨討論終了
 - ⑩総会成立の確認(資格審査委員会)
 - ⑪採決
 - ・ 2023 年度活動報告の承認
 - ・ 2023 年度決算の承認
 - ・ 2024 年度活動方針の承認
 - ・ 2024 年度予算の承認
 - ⑫役員選挙(選挙管理委員会)
 - ⑬役員選挙報告(選挙管理委員会)

5. 議事終了
 - ・ 議長団退任
 - ・ 新旧役員あいさつ
 - ・ 閉会のあいさつ 15 時 30 分

目次

2023 年度活動報告

総括	4
事務局	6
組織部	10
遭難対策部	14
登山文化委員会	22
自然保護委員	23
海外委員会	25
連盟救助隊	27

2024 年度活動方針

総括	35
事務局	36
組織部	37
遭難対策部	38
登山文化委員会	39
自然保護委員	40
海外委員会	41
連盟救助隊	41

北海道道央地区勤労者山岳連盟規約 (資料)	43
-----------------------	----

2023 年度 活動報告(総括)

1. はじめに

登山の趣旨は①登山は優れたスポーツ文化であり、憲法で保障された国民の権利である②登山の多様な発展を目指す③海外登山の普及と発展を図る④遭難事故の防止に努める⑤限りある自然を守り後世に残すという5つの命題を掲げています。道央地区連盟もこの目標に沿って各部・各委員会が日々活動をしています。

2023年度はコロナウイルスが5月8日から感染症分類の5類に引下げとなり、連盟行事も以前と比べると実行しやすい状況にかわりました。会員以外にも参加を呼び掛けている「市民登山教室(札幌・小樽)・クリーンハイク・登山研究集会」等のイベントを実施しました。また、北海道で初めて第4回全国救助技術交流会が開催され、当連盟の救助隊のデモが行われました。

理事会においても対面とオンライン形式の開催スタイルが定着してきました。会員の皆さんには今後ともご協力を頂きながら、連盟の運営にあたりますのでよろしく願いいたします。以下は2023年度の総括です。

2. 組織状況について

本年度は道央地区連盟で新規発足の団体が1団体あり、2023年度の加盟団体は19団体となりました。2023年度の会員数は707名で前年より19名の減少です。団体別でみると減少が8団体、増加が4団体、増減なしが7団体でした。707名の会員数は残念ながら2016年以来の低空飛行となってしまいました。退会者を少なくする方策として、山筋ゴーゴー体操サポーター養成講座で資格を獲得した方々の活躍で、齢を重ねても登山ができる会員を是非とも増やせるようにご協力をお願いしたい。

3. 山岳遭難概況・遭難対策活動・救助隊活動について

①国内の山岳遭難概況 2022年度(4月～3月)は遭難件数3015件、遭難者総数3506人といずれも統計を取り始めた1961年以降で最多です。件数は380件(14.4%)増、遭難者数は431人(14.0%)増。死者・行方不明は327人(前年比44人増)、負傷者が1306人(同149人増)です。遭難件数の大幅増加はコロナ禍でも徐々に登山を再開する人が増加したことに加え、アウトドア活動が近年注目され新たに登山・ハイキングを始める人も増えたことが背景にあるとみられます。

②遭難対策部がまとめた当連盟の状況は、21件の事故報告があり前年比で3件増加した。事故報告・ヒヤリハットは毎月の理事会で開示をし、各会にはメーリングリストで要約を報告している。

③8月13日午後6時30分、連盟救助隊に出動要請があり、翌日の午前2時30分ごろ先発隊の3名が日高・ヌピナイ川(大樹町)事故現場に向かった。救助は悪天候のため道警救助隊と合同で地上搬送での救助となった。

④7月8・9日の2日間の日程で第4回全国救助技術交流集会在小樽市(おこばち山荘)で開催された。デモンストレーションとして、当連盟の救助隊による救助活動訓練を披露した。

4. 教育活動について

2023年度の北海道登山研究集会は11月11・12日の2日間で記念講演・分科会を開催しました。記念講演は三俣山荘オーナーの伊藤圭氏を招き、「伊藤新道の復活」というテーマで講演をして頂きました。各分科会においても各テーマに専門的な知識をお持ちの講師を招きこれからの活動に役立つ分科会になった。

5. 自然保護活動の状況について

クリーンハイクは6月18日に実施、大雪旭岳9合目ブース及び裏旭ブースの体験・視察ツアーは9月9・10日の2日間で実施、美瑛富士携帯トイレ用ブース清掃活動は8月19・20日で実施したが、豪雨のため途中下山となった。登山道整備は10月14日(土曜日)に「小樽天狗山～塩谷丸山縦走路の笹狩りを実施しました。

4. 他団体との連携について

11月30日(木曜日)にテレビ塔2F「アカシア」で10団体50名の参加で開催されました。それぞれの団体から活動報告や活動アピールがあり、大いに盛り上がりました。昨年の交流会で提案である「小樽赤岩のトイレ建て替え要請」は、当連盟と北海道山岳連盟の連名で後志総合振興局宛に1,910筆(11/14現在)の署名を提出済みで、行政も令和6年度に向けて予算要望手続きを実施中である。また、新日本スポーツ連盟北海道連盟の所属団体からも署名活動に参加をしてもらっている。今後も他団体と交流を深めて、共通の課題を見つけながら連携を深めていきたい。

5. 理事会活動について

毎月の理事会は対面とオンライン参加の併用が定着化してきて、参加人数の大幅な変動が少なくなるとともに、質疑応答がスムーズになりつつある。

2023 年度 事務局活動報告

1. 2023 年度の理事会の体制

下記の体制で総会活動方針に基づき取り組みました。

会長	長水 洋	札幌登攀クラブ
副会長	佐藤 信二	バビシェ・マウンテン・クラブ
副会長	小野 洋子	ハイキングクラブみどりの風
理事長	大野 茂	ハイキングネットワークこだま倶楽部
副理事長	伊吹 省道	地図とコンパスで歩く会
事務局長	西條 寧	山遊会ル・レラ
事務局（会計担当）	横関 隆治	札幌ピオレ山の会
事務局	佐藤美知弥	リベルテ
事務局	松村 智弘	バビシェ・マウンテン・クラブ
組織部長	沼田 祐司	山遊会 ル・レラ
組織部	納谷 教生	百松山岳会
組織部	松本 昌樹	札幌山びこ山友会
組織部	杉野 悟	札幌山びこ山友会
遭難対策部長	大辻 英一	バビシェ・マウンテン・クラブ
遭難対策部	安田 治	札幌中央勤労者山岳会
遭難対策部	内海 弘昭	札幌中央勤労者山岳会
登山文化委員長	安東 仁志	札幌中央勤労者山岳会
登山文化委員	山本 裕之	札幌北稜クラブ
登山文化委員	山田清美	ハイキングクラブみどりの風
登山文化委員	佐々木 正義	ハイキングクラブみどりの風
自然保護委員長	伊吹 省道	地図とコンパスで歩く会
自然保護委員	川村 純子	ハイキングクラブみどりの風
海外委員長	佐藤 信二	バビシェ・マウンテン・クラブ
海外委員	辻野 健治	札幌北稜クラブ
海外委員	辻野 治子	同人ラリーグラス
会計監査	小畠 敏正	ハイキングネットワークこだま倶楽部
救助隊隊長	井谷 良太	札幌中央勤労者山岳会
	尾形 祐子	さっぽろ山遊会
	青山 愛	さっぽろ山遊会
	赤塚 善彦	スマイル・マウンテン・クラブ
	鎌田 雅年	函館山楽クラブ

2. 事務局活動

- ①事務局体制の整備について、事務局理事3名のところ1名が多忙等によって活動不可となり実質2名での運営となった。
- ②今年度の理事会は13回開催。各理事会の参加理事数は第2回21名、第3回18名、第4回21名、第4回17名、第5回15名、第6回19名、第7回20名、第8回19名、第9回17名、第10回17名、第11回15名、第12回18名。(連盟事務所開催)と、平均18.1(12月20日現在)名の出席者数であった。昨年平均は20.8名だったので、理事会の出席者数が減少傾向にある。
- ③各部との連携について、LINE、メーリングリスト、DM、SMSを通して、各部のサポートを行なうことが出来た。また、連盟行事に積極的に参加し、親睦会等でも交流を深めた。
- ③連盟作成データについては事務局内での共通利用を図り、蓄積保存に努めた。
- ④連盟事務所の維持管理については清掃日を設けての清掃を行うことが出来なかった。

3. 全国連盟、他連盟、加盟団体との連絡調整

- ①道央連盟加盟の山岳会との連携について、各会会長・事務局長メーリングリストを通し、全国連盟からの情報を速やかに各会へ発信することが出来た。また、小樽赤岩トイレの建て替えを求める請願や山岳団体交流会など、他団体との連携をスムーズに行うことができた。
- ②北海道勤労者山岳連盟60周年記念事業について、記念講演、祝賀会、記念登山の主幹となった道東連盟と連携し、情報等の交換に勤めた。また、60周年記念誌についても製作協力を行った。

4. 連盟ホームページの管理

- ①連盟ホームページについては今年も手をつけることが出来なかったため今後のさらなる課題としたい。また、Web運営(連盟ホームページ)の複数化も出来なかったため併せて検討したい。

5. 新日本スポーツ連盟の活動について

新日本スポーツ連盟北海道連盟に道央地区連盟から理事として1名(大野理事長)を派遣しました。今年度に当連盟に係った活動は以下の通りです。

【平和大好きランニング&ウォーク in 札幌】

今年は9月17日(日曜日)に3年ぶりに開催しました。5月8日から「コロナウイルス」が感染症分類の5類に分類されたことにより以前から比べると楽な気持ちで開催準備ができました。とはいえ、残念ながらコロナウイルス発症前の人数までは集まりませんでした。ウォークは札幌市役所を起点に札幌の歴史の一端が残る創成川沿いからをランニング会場の豊平川河川敷まで、リュックに思い思いの平和へのアピールを描いたものを掲げて歩きました。ランニングは5^{キロ}と3^{キロ}リレーの種目別で行われ、こちらも個人・チームごとにアイデア溢れる力作で、平和へのアピールをゼッケンや旗竿で力強く表現しました。

【新年交流会】

本年度の交流会は札幌市内の「ANA ホリディ IN 札幌すすきの」で各競技団体の方々16名が参集して令和5年1月25日(木曜日)に開催されました。各競技団体の活動等の報告、ミニライブも実施し、今後の各団体の活躍・躍進を確認して無事交流会を終了しました。

【札幌市へのスポーツ施設等改善要求】

登山関係の要望事項

- ・さっぽろ遊歩道について

本年は札幌市民や観光客が多く訪れるであろうと思うルートを確認しました。以下は今回確認したルートです。

三角山(山の手入り口・宮の森入口)、円山(八十八カ所入口)、藻岩山(旭山公園駐車場入口・慈啓会病院入口)の五カ所の登山道案内板を確認しました。いずれも大変見やすい案内図に替えて頂きありがとうございました。

今回お願いしたいのは、円山の八十八カ所入口に木製案内図(札幌周辺自然歩道・円山～藻岩山ルート)の一部が消えて見えません。登山する人には大変参考になる案内図ですので早急の対応をお願いしたいと思います。

札幌市の回答

自然歩道等の各施設につきましては、毎年劣化状況を点検し、修繕しております。当該木製案内図の表記につきましても、登山者にわかりやすく案内できるよう印字方法等検討し、対応してまいります。

建)みどりの推進部みどりの管理課

札幌市の施設にスポーツライミングウォールの設置を

2015年9月の明治大学教養論集「スポーツライミング競技における公共施設の重要性」では、日本全国の競技人口は約50万人と推定され、老若男女に人気のある生涯スポーツです。スポーツライミングの歴史は古く、1989年に初めてワールドカップが開催されリードクライミング競技のみで実施されました。翌1998年にスピード、1999年にボルタリングが追加になり現

在に至っています。日本においても 1996 ねん(平成 8 年 3 月)にスポーツクライミング用人工壁(室内トレーニング用)が設置されています。

このような歴史を持っているスポーツクライミング競技は国際的にも人気があり、東京オリンピックの正式種目に追加されました。東京オリンピック後の競技人口は 70 万人ともいわれ、柔道や剣道の競技人口に肩を並べるような人数になっています。パリオリンピックにも継続して正式種目似残っています。現在、の本の国別ランクはリード・ボルタリングの種目に於いて上位国に位置付けられています。施設の充実で残りのスピード種目も上位に来るのではないのでしょうか。

このような状況を鑑みて「国際的な大会ができ、多様な練習が可能なクライミングウォール」「他の競技と競合しない独立したスペースを持つクライミングウォール」の設置を強く求めます。

札幌にあるクライミングの公共施設は「きたえーる」のみで、全国的なイベント・大会が優先されるために、国体北海道ブロック予選や札幌市民体育大会で借りることが困難な状況です。下記はきたえーると私たちが要望する規格の比較です。

	「きたえーる」ウォールの規模	要望するウォールの規模	
高さ	15 m	15 m	7 m
幅	6 m	10 m	10 m
形状	垂直	斜度 120~130 度で 手前せり出しから 5m であること	

また、ウォールの規模以外の要望としてふろーあは 20m×20mの広さを確保、大会等の際には隣との壁を外して、観客席が取れることが望ましいと考えています。前述した規模等は屋内を想定したものですが、十分な雨対策が行えれば野外という選択もあるのではないのでしょうか。

先般、北海道新聞に載っていた「新月寒体育館」建設に札幌ドーム敷地内に整備するとの記事を見ました。この機会に是非とも、世界的に人気が高まっているスポーツクライミング(全世界の競技人口 2500 万人)の施設拡充を考えてみてください。そして施設が充実することで、大規模な国際大会の招致もできるのではないのでしょうか。

札幌市の回答

現時点ではスポーツクライミングウォールの設置予定はございません。

ス) スポーツ部施設課

2023 年度 組織部活動報告

1. 市民登山教室

1) 第 44 回札幌市民登山教室

4月17日に開催要項を確定し、受付期間を5月5日から17日として募集活動を始める。

市内登山用品店3店に開催チラシを掲示し、5月4日に道新に「登山を学ぼう」との記事も掲載されたが、受講申込者は16名と前年(54名)に比べて大きく減少した。

実習登山を雨天により中止(予備日の設定なし)したため、交流会参加者も6名に止まる結果となった。

実施内容

日時・会場	内 容
5月25日(木) 19:00~ 2100 札幌エルプラザ	開講と机上学習① ○登山の計画と山の危険 【講師】百松山岳会 納谷 教生 さん ○基本的な登山の装備と選び方 など 【講師】バビシェ・マウンテンクラブ 船坂 大樹 さん
6月 1日(木) 19:00~ 2100 札幌エルプラザ	机上学習② ○地形図の見方・コンパスの使い方 【講師】地図とコンパスで歩く会 伊吹 省道 さん ○実習登山のミーティング 【各会派遣のサポーターと登山打ち合わせ】
6月 4日(日) 塩谷丸山(小樽市)	実習登山 雨天の予報から、前日に中止を決定
6月 6日(火) 19:00~ 20:30 札幌エルプラザ	交流会 ○道央連盟の活動紹介と登山Q&A ○各会(クラブ)の活動紹介

教室終了後の対応

- ・中止した実習登山の代替山行として、6月25日(日)に盤溪山・三菱山へ登る。
- ・スマイルMCが受講者のフォローをしていただいても、入会には至らなかった。

受講者の状況

- ・年齢階層別では30代1名、40代2名、50代8名、60代4名、70代超1名
- ・登山経験が経験の浅い方が多い印象
(登山歴~「藻岩山や三角山」「十勝岳に登ったきり」「ほぼ登山経験なし」)
- ・市民登山教室の開催情報を何から得たか~既会員1名を除き「道新記事」

次回開催に向けて

- ・開催情報を早期に発信し、周知期間を確保すること。合わせて周知媒体を工夫すること。

- ・雨天対応として、実習登山の予備日を予め設定すること。
- ・座学は内容が盛りだくさん過ぎるのかもしれない。受講生の理解が追い付いていない印象が残った。

2) 第 32 回小樽市民登山教室

日時・会場	内 容
5月17日(火) 18:30～20:30 小樽総合福祉センター	開講と机上学習① ○登山のための準備 【講師】 鈴木 孝輝 さん ○服装と持ち物 【講師】 山下 敬子 さん
5月23日(火) 18:30～20:30 小樽総合福祉センター	机上学習② ○地形図の見方とコンパスの使い方 【講師】 角江 嘉昭 さん ○実習登山の打ち合わせ 【実習登山スタッフとの打ち合わせ】
5月28日(日) 小樽天狗山 (お地蔵さんコース)	実習登山 ○登山行動の実践 反省会(下山後、小樽市総合福祉センターで)

受講者の状況

- ・受講申込は8名(男性40代2名、女性40代1名、50代1名、60代4名)
- ・実習登山は受講生6名(+今年度入会した会員2名)とスタッフ11名参加して予定通り行う。
- ・6月18日の塩谷丸山クリーンハイクにも参加した受講生2名が会に入会した。

2. 山筋ゴーゴー体操講習会

山筋ゴーゴー体操を普及するため全国連盟が地方連盟と協働で実施する「山筋ゴーゴー体操・ONE DAY サポーター養成講座」として、次のとおり開催した。

(1) 日時会場 2023年10月8日(日) 9:00～16:20 かでる2・7

(2) 参加者(略称)

小樽労山(2)、やまびこ山友会(1)、百松山岳会(2)、スマイルMC(2)、
さっぽろ山遊会(2)、ル・レラ(1)、組織部(3) 計13名

(3) 講師

全国連盟山筋ゴーゴー体操サポーター推進委員会から3名の派遣を受けた。

(石田良恵講師、全国連盟久保副理事長、宇田川委員長)

(4) 講座の内容

ゴーゴー体操6種目について講師から身体の動かし方や注意点の指導を受けた後、所属会内での講習会を想定して、6種目の実演と各種目の目的や強化される部位(筋肉名)・効果等の説明内容などを習得した。

(5) 今後に向けて

加齢とともに進む筋肉量の低下は、判断力やバランス能力の衰えにつながり、山での転倒、滑落などのケガや事故の誘因にもなると考える。適度なトレーニングと栄養・睡眠で筋肉は改善されることから、会員への普及実践を進めたい。

今回の受講者には、所属会内での普及活動を期待する。また、引き続いて未受講の会・会員への普及の機会を設けたい。

3. 連盟組織調査

全国連盟が毎年実施する地方連盟組織数調査に併せ、2023年11月末日時点の各会の会員数等について各会クラブから報告を得て集計した。

今年度は「地図とコンパスで歩く会」が新規加入し、構成団体は19会・クラブとなった。会員数は前年度の726名から19名減の707名。当連盟では会員数800名を目標に掲げているが、残念ながら、2019年の733名をピークに漸減傾向にある。

調査結果の詳細は、表1（各会会員数）表2（会員数の推移）を参照されたい。

表1

団 体 名	団体 コード	2022年 会員数	2023年11月末会員数				今期中の増減		会員の年齢構成の状況						労山基金 加入者数
			会員数	(男性)	(女性)	前年数 対比	入会者 数	退会者 数	20代	30代	40代	50代	60代	70~	
1 小樽勤労者山岳会	011101	36	36	23	13	0	7	7	1	1		8	13	13	34
2 GROUPE DE ROCHER	011201	8	8	5	3	0	0	0			1	1	6		8
3 札幌中央勤労者山岳会	011301	153	151	65	86	-2	10	12	11	7	24	43	36	30	139
4 札幌ピオレ山の会	011302	41	44	22	22	3	3	0		1	9	9	16	9	44
5 札幌北稜クラブ	011303	40	45	33	12	5	6	1	7	4	10	7	14	3	45
6 札幌山びこ山友会	011304	44	43	19	24	-1	5	6		1	4	6	16	16	43
7 札幌登攀倶楽部	011305	9	9	8	1	0	0	0			1	3	3	2	9
8 同人ラリーグラス	011402	11	11		11	0	0	0		2	2	5	2		11
9 ハイキングクラブみどりの風	011601	38	29	9	20	-9	4	13		1	1	2	15	10	19
10 百松山岳会	011602	42	42	23	19	0	3	3		2		6	8	26	33
11 ハイキングネットワークこだま倶楽部	011603	14	13	7	6	-1	1	2				5	1	7	13
12 函館山楽クラブ	011604	76	72	20	52	-4	7	11				4	25	43	54
13 バビシェ・マウンテン・クラブ	011605	95	85	47	38	-10	11	21	3	9	32	31	5	5	85
14 山遊会ル・レラ	011311	4	4	2	2	0	0	0					3	1	4
15 さっぽろ山遊会	011312	55	48	17	31	-7	9	16			1	13	21	13	48
16 同人スノク	011403	4	4	2	2	0	0	0					1	3	4
17 スマイル・マウンテン・クラブ	011313	56	49	29	20	-7	14	21	1	2	10	17	15	4	49
18 リベルテ	011901		12	8	4	12	14	2		1	6	5			12
19 地図とコンパスで歩く会	011404		2	1	1	2	2			1				1	1
総 合 計		726	707	340	367	-19	96	115	23	32	101	165	200	186	655

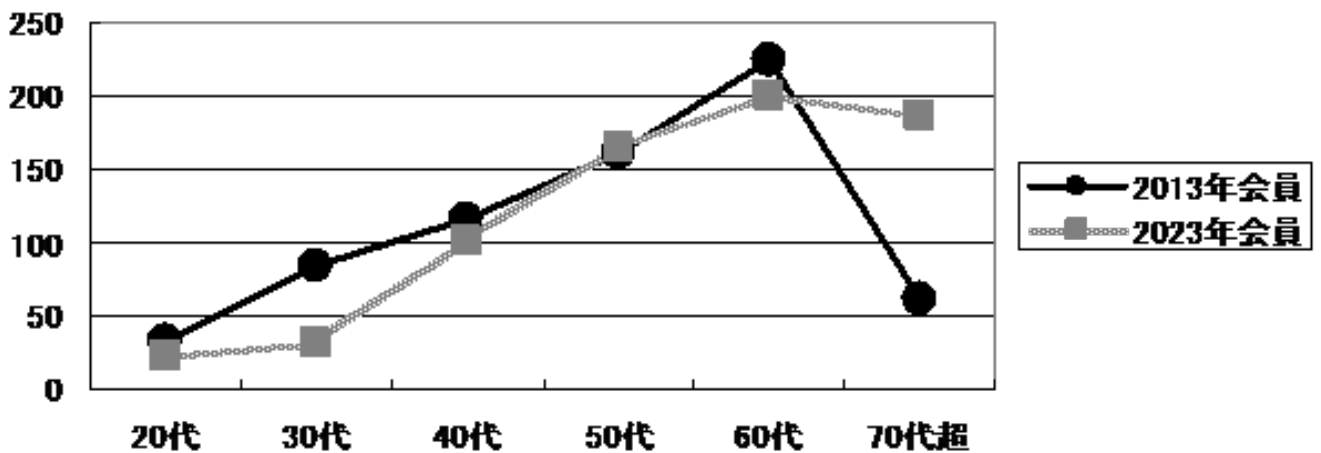
2022年11月末会員数	732	726	374	352	-6	73	79	20	39	108	170	201	188	639
2021年11月末会員数	718	732	371	361	14	88	74	26	46	109	156	217	178	651

表 2

直近10年間の会員数の推移(2014年～2023年)

団 体 名	2008	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022	2023
1 小樽勤労者山岳会	52	54	54	53	54	57	56	55	50	44	39	36	33	36	36
2 GROUPE DE ROCHER	20	20	17	17	16	15	14	15	15	14	18	14	11	8	8
3 札幌中央勤労者山岳会	129	146	132	133	135	138	151	160	161	158	173	168	152	153	151
4 札幌ピオレ山の会	49	37	42	40	35	36	40	44	44	43	45	44	42	41	44
5 札幌北稜クラブ	39	43	41	39	38	41	44	46	47	48	51	45	38	40	45
6 札幌山びこ山友会	65	63	58	59	60	55	50	47	47	48	53	44	44	44	43
7 札幌登山倶楽部	19	15	15	12	14	13	12	13	12	10	10	10	9	9	9
8 同人ラリーグラス	9	10	11	14	14	13	10	9	8	8	9	13	11	11	11
9 ハイキングクラブみどりの風	38	45	44	49	55	52	53	47	48	53	50	42	48	38	29
10 百松山岳会	88	68	59	62	58	54	48	44	46	48	45	44	44	42	42
11 ハイキングネットワークこだま倶楽部	10	12	18	16	17	16	13	12	11	13	14	13	13	14	13
12 函館山楽クラブ	35	39	40	45	46	49	49	53	54	54	51	56	75	76	72
13 パピシェ・マウンテン・クラブ	30	46	53	81	88	90	95	105	115	120	110	98	98	95	85
14 山遊会ル・レラ					4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4
15 さっぽろ山遊会						17	19	30	42	35	39	44	53	55	48
16 同人スルク								5	4	5	5	4	4	4	4
17 スマイル・マウンテン・クラブ										4	21	39	53	56	49
18 リベルテ															12
19 地図とコンパスで歩く会															2
脱 札幌ファミリー山の会(2019年11月退会)	20	20	20	20	20	32	30	2	2	1					
脱 小樽おこばちハイキングクラブ(2019年3月退会)	16	13	13	12	12	11	11	11	11	11					
脱 倶楽部雪艇狂人(2018年8月退会)	10	10	10	7	7	5	5	5	5						
脱 望峰の会 (2016年8月退会)	4	4	4	3	3	3	3								
脱 札幌山岳写真倶楽部 (2015年8月退会)	7	4	5	6	6	4									
脱 札幌労山OB会	3	2	1	1											
総 合 計	643	651	637	669	682	705	707	707	726	721	737	718	732	726	707

表 3



今年の会員の状況～年齢構成を10年前(2013年)と比較した。
 2013年、2022年とも60歳代がピークだが、70代超で急角度に下降(減少)した2013年に比べ、2022年は下降傾斜が緩やかになっている。一方、30歳代の減少が目立つ。
 この10年間で25人ほど会員が増加したが、それには70歳代の会員増が大きく貢献していると考えられる。
 人口の減少(特に若年人口)と高齢化など組織拡大に向けた環境は厳しい。言わずもがなであるが、会員が健康を維持して元気に山行を継続すること～現会員の退会抑制、40、50歳代の若年会員の獲得が会員増へのポイントであることがこのグラフからも読み取れるのではないかと。

2023 年度 遭難対策部活動報告

1. 遭難対策部会と担当者会議

2023 年度も新型コロナウイルスの影響に配慮し、部会・担当者会議といった 集まりを極力自粛
させて頂きました。

2. 遭難事故・ヒヤリハット報告

(1)事故報告 別紙参照 (2)ヒヤリハット報告 別紙参照

3. 第 52 回 北海道登山研究集会への取り組み

(1)第二分科会の開催 (2)登山研究集会論文集の発行
2022 年～2023 年 道央連盟 事故・ヒヤリハット報告
2022 年～2023 年 日本勤労者山岳連盟 死亡事故一覧
第 4 回全国救助技術交流集会の報告

4. 第 29 回 北海道雪崩講習会への取り組み

実習講習会日：2024 年 1 月 27 日（土）～28 日（日）

場所：中山峠 道の駅 南～南東エリア

内容：積雪と雪崩についての学習と、雪崩事故防止・捜索救助技術の訓練。

基本クラス 42 名 中級クラス 11 名 上級実践クラス 3 名 + 運営本部 27 名

基本クラス 38 名 中級クラス 10 名 上級実践クラス 3 名

講師志望生Ⅱ 3 名 講師志望生Ⅰ 2 名 参加講師 19 名 外部講師 1 名 運営委員 5 名

聴講生 25 名（参加総数 106 名）

5. 全国勤労者山岳連盟による第 4 回全国救助技術交流集会の開催

2023 年 7 月 8 日（土）～7 月 9 日（日）

小樽 自然の村 おこばち山荘

遭難対策部と連盟救助隊で協力し北海道初の開催

北海道 18 名 道外 19 名 合計 37 名が参加

2023 年 事故・ヒヤリハット報告書一覧

道央地区勤労者山岳連盟遭難対策部

(1) 事故報告

	発生日	会名	山域・ルート	発生状況	傷害の程度
1	1月7日	バビシェ・マウンテンクラブ	ニセコアンヌプリ ニセコ花園スキー場コース 外エリア	8人パーティーでリフトを乗り継ぎ、ゲート4からトラバースで東面へ移動し滑走。女性会員が滑走中の転倒し左足首をひねる。スキー場のパトロールと連絡をとり、リフトで下山。	左足首脱臼 骨折
2	1月15日	バビシェ・マウンテンクラブ	富良野岳 ジャイアント尾根コース	4人パーティーで1500m付近までスキーで登り滑降。1340m付近まで降りてきた時に、女性会員が重い雪にスキーが刺さり転倒。右足の膝が伸びるように倒れた為、膝にダメージを受けたが自力下山。	右膝内側半月板損傷
3	2月19日	バビシェ・マウンテンクラブ	能取岬 ハヤブサの滝	2名でアイスクライミング。ハヤブサの滝にて、女性会員がリードクライミングを開始し、ルートを設定中、スクリュウ設置に手間取り、かつ右脚設置氷柱が崩落したため、塗落した。自力下山。	左前腕裂傷 右膝打撲
4	2月20日	札幌登攀倶楽部	オロフレ山	リーダーの女性会員とメンバーの男性会員の2名でスキー登山。標高900m傾斜30度ほどの斜面で雪面下部が割れるように大量の亀裂が入り男性会員が流された。女性会員は「雪崩だ」との声に斜面を見るが流されている様子は確認できず。ビーコンをサーチモードにし、スキーのまま下降しようとしたところデブリ末端で雪面の動きがあり男性会員の埋没地点を発見。全身の掘り起こしを開始、幸い雪質が軟らかく上半身の掘り起こしは短時間で出来た。怪我や低体温症の兆候もなく、水分を補給し	障害はなし

				現場の写真撮影後に下山。	
5	3月18日	同人 ラリー グラス	奥夕日岳	P640を下りだして、雪に足を取られて、最初の転倒があったので最後尾にいた女性会員を真ん中に、サブリーダーを最後尾に、順番を変更した。その後、一回転倒、三回月の転倒で、膝を痛めた。	左膝内側じん帯損
6	3月19日	リベルテ	塩谷丸山	男性会員と女性会員の2名で登頂後、男性会員が下り斜面を小型ソリで滑降中に、左足を雪の塊に引っ掛けて足首を捻り前のめり転倒。痛みが酷かった為、テーピングテープで固定、鎮痛剤を飲んで処置。処置後は自力下山。	左足首骨折
7	3月25日	リベルテ	上ホロカメック トク山	8人パーティーで下降ルンゼから登頂後、D尾根から下降開始。女性会員が1460m付近からバランスを崩して安政火口へ向けて距離180mくらいを滑落。患部を固定、鎮痛剤を飲み自力下山。	右手小指捻挫
8	3月26日	バビシェ・マウンテンクラブ	上ホロカメック トク山 北西稜	3人パーティーで登頂後D尾根経由で下山。D尾根最低コルから旧噴火口に向かって下降を開始し、途中化物岩に立ち寄るために化物岩基部に向けて斜めに下降中、男性会員が1550m付近より滑落。自力下山。	右足首靭帯断裂
9	4月9日	札幌中央勤労者山岳会	利尻山 長浜ダイレクトリッジ～北陵	リーダーの男性会員とサブリーダーの女性会員の2名で登攀中、長浜尾根の1380m付近で8時頃、女性会員が左傾斜の斜面を歩行中、急に左足が雪中に膝上まで埋まった状態で、重たいザックが重力で左に振られ、その反動で上半身も左に持っていかれ左足に負荷がかかった。その後、鈍痛はあったものの歩行可能だったため山行を続行し登頂後下山。	前十字靭帯損傷

10	5月14日	バビシェ・マウンテンクラブ	小樽赤岩 奥リス	<p>奥リス上部の終了点で作業中であつたメンバーと会話をしながら数歩近付き、上方を見上げた瞬間に太陽光が目に入り、足元が見えなくなり崩れそうな岩場に足を置いてしまった。</p> <p>そして岩が崩れ足を取られて左半身を下に転倒した。転倒した際に頭を打ち、軽い脳震湯脳を起こしたのかしばらく動けず、吐き気と眩量の症状があつた。左手首の疼痛と右手の疼痛も強く、周囲にいた医療従事者数名により左腕を三角中で固定、口唇や顔面の挫創部には絆創高を張り、自力で下山、当番病院を受診した。</p>	関節内骨折 観血手術
11	5月27日	バビシェ・マウンテンクラブ	石垣山	<p>4人パーティーが、山直下付近でクラッククライミング中に、男性会員がクラックから体が吐き出され、墜落。</p> <p>直前に取っていた中間支点のカムが外れたことにより約4m墜落した。</p> <p>次にとっていたカムで墜落を止められたが、ルート上に生えている灌木に右足ふくらはぎを強打した。</p>	打撲による痛み、違和感。
12	6月18日	函館山楽クラブ	駒ヶ岳 赤井川コース	<p>クリーンハイクとして、総勢24名で駒ヶ岳の赤井川コース沿いと馬ノ背で清掃作業(ごみ捨い)を行った。</p> <p>14時15分頃に下山を開始し、九合目を過ぎたところで女性会員が足を滑らせて転倒し、右足首を捻った。同行メンバーが足首テーピング固定の処置を施し、ザックを別のメンバーが背負って、女性会員が自力歩行で駐車場に戻った。</p>	右足関節外果骨折

13	7月8日	さっぽろ山遊会	大雪山緑岳	女性3名で山頂到着後にザックを置き、写真を撮ろうとして標識に向かって歩いた時に、女性会員が石に躓きバランスを崩して、前にあった石に額をぶつけ出血した。同行者に絆創膏で処置をしていただき、暫らくその場に寝て待機したところ、血が止まり体調に問題がなく昼食を摂った。1時間程度休息してから下山して、下山後は交代で運転をして帰宅した。	創傷処理
14	8月13日	札幌中央勤労者山岳会	ソエマツ岳 ピリカヌプリ 沢登り	6人パーティーで沢登り後、三日目の15時20分ころ580m地点で痩せた尾根をクライムダウン中、進行方向右手の沢筋に女性会員が滑落。 尾根上に1.5m位の段差があり、正面を向いて降りようとするのが無理で、左側の木につかまりクライムダウンで降りようとした際、握っていた木が折れた。折れたことにより体が後ろに倒れ滑落。10mくらい真っ逆さまに滑落し、途中の立ち木に接触、空中で数回転しながら地面に叩きつけられ、20～30m転がりながら落ち、倒木で止まる。下山開始し警察に救助要請。	帯広厚生病院 整形外科病棟に入院
15	9月2日	バビシェ・マウンテンクラブ	岩内岳 雷電山	4人パーティーで岩内、雷電山に登り、岩内店に戻った18時頃に809m付近で女性会員が転倒、応急処置後キャンプ場登山口へ下山。	右足の後十字靭帯附着部・内側側副靭帯附着部？ 外側側副靭帯附着部？ 離骨折
16	9月17日	函館山楽クラブ	黒松内岳 黒松内川コース	黒松内岳頂上から下山を開始する。 天気は曇りで風は弱い、三合目	左足首の捻挫および 左くるぶし

				を過ぎると下山道の傾斜が急になり、二合目付近で女性会員が木の根につまづいて転倒し、左足首を捻った。同行メンバーが足首に弾力包帯を巻いて応急処置を施し、別メンバーが女性会員のザックを背負って、女性会員は自力歩行で駐車場に戻った。	の骨折
17	9月23日	リベルテ	エサオマント ツタベツ岳 エサオマント ツタベツ川	下山中 1450m付近の滑滝で1m程度滑落。 足を捻り痛みがあるので、安定した場所に移動してテーピングテープで固定し鎮痛剤を飲む。 歩ける痛みなので下山開始。 18時びれい橋付近の車止め着。	左足首骨折
18	9月23日	スマイル・マウンテンクラブ	日高山脈 1839峰	男性3人パーティーで札内川ヒュッテからコイカクシュサツナイ岳、 ヤオロマップ岳を経て1839峰を目指したが、コイカクシュサツナイ岳頂上の下りからハイマツの藪が濃くなり、藪こぎをしながら進む。 男性会員がハイマツを踏み抜き、左膝を岩で強打した。痛みを感じたが歩けたので、そのまま、山行を継続し、自力下山した。	左膝前十字靭帯部分断裂
19	9月24日	バビシェ・マウンテンクラブ	エサオマント ツタベツ岳	会員2名で登頂後、滑沢を下山中、沢履では滑るため滑沢をゆっくり降りようと、戻っている途中で、女性会員が草つきの岩に足を取られ、左膝を内側に捻りながら転倒。 直ぐに立ち上がると、膝に痛みを感じたが、そのままゆっくり下山。途中より、膝内側の痛み、腫脹が感じられたため、サポーターで膝を固定して、ポールを使用しゆっくりと下山した。	左内側側副靭帯損傷

20	10月2日	札幌中央勤労者山岳会	小樽赤岩 子猫岩	女性2名でクライミング。メンバーの女性会員が5mほど登った地点で、右手カチに体重をかけて立ち上がったところ、縦横10cmくらいのカチがボロっとそのまま岩からはがれ、真下よりやや谷側に向かって落下した。腐って脆くなっていた3ピン目のハーケンが折れ、2ピン目で止まったが、すでに5mほど登っていたためグラウンドフォールとなった。さいわい岩が転がっている固い地面ではなく、谷側の草地に落下した。	左額4.5cm裂傷、右第9肋骨骨折 (20日ほどでほぼ回復)
21	10月11日	函館山楽クラブ	焼石岳 岩手県	7人パーティーで11時30分に焼石岳南コルに到着し強風のため登頂を断念。12時30分に下山を開始。姥石平を過ぎた標高1350m付近で女性会員が流水で岩石が露出した登山道で足を滑らせて右手が石に当たり、手首を骨折した。間もなく下山してきた別パーティー2名 (元高校教師と看護師) に応急処置を施してもらい、銀明水まで空身で下りた。女性会員は銀明水で防災へりにピックアップされ、岩手県立病でギプス固定処置を受けた。	右橈骨遠位端骨折

(2) 各会からのヒヤリハット報告

	発生日	会名	山域・ルート	発生状況	傷害の程度
1	1月11日	バビシェ・マウンテンクラブ	キロロスキー場内 (ゲレンデサイド)	疎林帯をスノーボードで滑走中、緩斜面で止まってしまった為、枝を掴み進もうとしたところでその枝が折れ、雪の塊が落下し埋没。身動きが取れず脱出に10分程度かかった。	障害はなし
2	1月29日	スマイル・マウンテンクラブ	ニセコイワオヌプリ	7人パーティーで登頂後、男性会員を先頭に滑走を開始する。男性会員は	障害はなし

				滑走中にビンディングが外れて転倒、雪の中で身体を動かそうにも上半身の自由が利かず雪に頭が埋まったままとなった。他の男性会員が救援のため転倒場所に到着し対応。	
3	3月31日	スマイル・マウンテンクラブ	積丹岳 北尾根ルート	9人パーティで山スキー。山頂から滑走後、北果毛根の1060m付近で全員の到着を14:50頃まで待つが、男性会員の姿を確認できないため、電話連絡で男性会員との通信を行う。電話での会話では男性会員の現在位置を特定できないため、その場を動かないように伝え、男性会員のものと思われるシュプールを追い捜索を行う。 15時15分北東尾根926m付近で男性会員を発見する。男性会員より、「間違えて降りてしまった」との発言あり。	障害はなし
4	4月9日	札幌中央勤労者山岳会	利尻山 長浜ダイレクトリッジ～北陵	リーダーの男性会員とサブリーダーの女性会員が登頂後、下山途中14時頃に女性会員が爆風に帰られバランスを崩し、膝に痛みが走りリーダーに干渉してしまい共に50mほど滑落。回転しながら体制を立て直し一度手から離れたアックスをリュージュで手繰り寄せ停止行動でスピードが落ちると同時にもう片方のアックスが斜面に刺さりハーネスに繋がっていたリュージュで二人同時に止まる。	障害はなし
5	4月29日	札幌山びこ山友会	神威岳	男女7人パーティーで登山口から10分ほど行った450m地点の谷で登山道が崩落しており、トラバースを余儀なくされる。積雪で崩壊した土斜面で30m下はわずかな雪渓と細い沢となっている。メンバーが三分の二ほど渡ったところでロープを出そうとしていると、男性会員が斜面に付着した雪で足を滑らせ15mほど滑落して停止した。	障害はなし

				メンバーが木にロープの先端を結び付け下方に投げたものをつかんで男性会員は自力で脱出した。	
--	--	--	--	--	--

2023 年度 登山文化委員会活動報告

コロナ・ウイルスによるパンデミック・ステージが漸くにして第 5 類に転換となり、第 52 回登山研究集会開催の

実施を平常モードにて実施となりました。WITH コロナによる長きに渡る時間を経ての実施検討であり、改めて労

山運動の原点を認識していくような準備（記念講演会の内容を検討）を開始した。

1. 登研実行委員会の開催

・グループ・メールによる意見交換からリアル実施部会をメインとすることになった。

(1) 構成メンバー

①連盟理事：安東（中央）、山本（北稜）、伊吹（小樽）、山田（みどり）、佐々木（みどり）

②登研委員：桑原（北稜）、佐藤（山びこ）、志和（山びこ）、石山（山遊会）、高田（山遊会）、城戸（百松）、山内（スマイル）

(2) 登研実行委員会の開催：毎月第 1 水曜日 連盟事務所で開催の予定にて、グループ・メールによる意見交換及びリアル実施部会とした。記念講演会講師の選定に時間を要したため、次年度以降においては講師候補者の接点を早めるべきとの教訓となりました。

2. 論文報告集の発行

各分科会のテーマに基づく報告文（ページ数及び原稿の仕上げめ切）を印刷予算から割り出したページ数となるように協力を戴いた。総会員に無償配布しカラー印刷による視覚効果も引き続き継続して、よりコンパクトな紙面割となるように工夫をしました。

発行数 1000 部：下記①～③の合計

【配付先内訳】 総会員数の部数を目安に無償配布することとした。

（会員数は 2022 年 11 月現在）

① 道央連盟：配付数計 767

配付先・配付数

配付先・配付数 (会員数)	中央労山 175	百松山岳会 45	北稜クラブ 45	山びこ 45	ピオレ 45
	みどりの風 35	こだま倶楽部 15	同人スック 5	ロシェ 15	函館山楽会 60
	ラリーグラス 13	登攀倶楽部 10	スマイル 60	バビシェ 100	小樽労山 40
	さっぽろ山遊会 45	ル・レラ 4	リベルテ 10		

② 道央外連盟：配付数計 128

配付先・配付数

配付先・配付数	旭川労山 30	オホーツク 3	帯広労山 35	釧路労山 25
	道央連盟 20	北見労山 15		

③ その他・・・分科会 30、執筆者他 40、予備 35

3. 記念講演会

現在の三俣山荘オーナー伊藤圭氏により「伊藤新道の復活」と題して北アルプスの山小屋の過去・現在・未来を語って戴きました。著者の父、伊藤正一氏は勤労者山岳会の創始者であり、山岳文学「黒部の山賊」の著作も広く知られています。労山運動の始まりの時代背景などにも思いを寄せる機会となりました。

4. 第 52 回登山研究集会参加者数

記念講演会 96 名、分科会 155 名 計 251 名（前年対比 84 名増加）

2023 年度 自然保護委員会活動報告

下記の通り報告いたします。

1. クリーンハイクを 6 月 18 日第 3 日曜日に実施しました。

参加団体：18 団体、16 ヶ所の山域で実施。

参加人数：会員 206 名、一般：71 名、合計 277 名

ゴミ収集：可燃ゴミ 17.4 Kg、不燃ゴミ 85.8Kg、合計 103.2 Kg

ご協力ありがとうございました。

2. 自然学習交流会の企画

(1) 大雪山・山守隊の登山道整備イベントの参加

残念ながら日程調整が出来ず参加できませんでした。

(2) 高山植物観察山行

7月23日(日)に上川町浮島湿原にて植生観察山行を実施しました。

参加者：札幌山びこ山友会3名、H.Cみどりの風8名、ル・レラ2名、

さっぽろ山遊会1名、札幌ピオレ山の会2名、スマイルM.C10名、

バビシエ3名、ラリーグラス1名、地図とコンパス3名、合計33名。

エゾヒツジグサ(別名：すいれん)が満開でとてもきれいでした。

ご参加いただきありがとうございました。

(3) 大雪旭岳9合目ブース及び裏旭ブースの体験・視察ツアー

9月9日(土)～10日(日)、9日は陵山荘に宿泊し翌日ツアーを実施しましたが、時間の都合で裏旭のブースは視察できませんでした。

参加者：札幌山びこ山友会2名、スマイルM.C2名、百松山岳会1名、

地図とコンパス1名、合計6名。ご参加された皆様ありがとうございました。

(4) 美瑛富士携帯トイレ用ブース清掃活動の参加

8月19日(土)～20日(日)、19日は白銀荘に宿泊し、当日は雨天のため希望者のみで決行しましたが、中間点で豪雨となったため、やむなく途中下山しました。

参加者：札幌山びこ山友会8名、さっぽろ山遊会3名、スマイルM.C4名、

札幌ピオレ山の会2名、百松山岳会1名、地図とコンパス1名、

合計19名。ご協力ありがとうございました。

(5) 登山道整備小樽天狗山～塩谷丸山縦走路の一部区間の笹刈

10月14日(土)に自然の村登山口～オコバチ分岐及び送電線下、オコバチ山の中間点などの1.9Kmを笹刈しました。皆さん、丁寧に幅広く刈ってくださいました。ご協力ありがとうございました。

参加者：札幌山びこ山友会2名、さっぽろ山遊会2名、スマイルM.C7名、札幌ピオレ山の会2名、ル・レラ2名、百松山岳会5名、地図とコンパス1名、合計21名。

ご協力ありがとうございました。

3. 登山研究集会第4分科会(自然保護)の講演会

環境省の山北自然保護官に「レンジャーの仕事ってどんなもの?」について11月12日(日)(9:30～11:00)にご講演いただきました。なお、講演日の3日前に環境省から日高山脈襟裳岬並びに周辺地域を構成地域とする国立公園(名称:未定)について環境省案が公表され、意見募集(パブリックコメント)が開始されましたので、案の概要を説明していただきました。(～12月8日まで)

[講演の概要]

公園区域の指定:

現在の国立公園の構成区域は日高山脈と飛び地のアポイ岳と襟裳岬と黄金道路(103,447ha)ですが、新しい案ではこれらの飛び地を面をつなぎさらに日高スキー場を加えた245,668haになり、大雪山国立公園226,764haを抜いて日本一の規模の国立公園になる見通し。

公園計画の決定:

開発の手が入らない特別保護地区は 19,496ha から 73,743ha へと約 3.8 倍に拡大されたため、日高山脈の「売り」である「原始性」が広く守られるようになっている。

利用施設計画：

単独施設 20 箇所、車道 10 路線、歩道 18 路線

山岳会が関心を持つ林道の整備については林野庁の管轄となるためお答えできない。野営地の指定やトイレ、川辺の焚火などの具体的な運用ルールについては、指定後に関連自治体や有識者、山岳団体、自然保護団体などで構成される連絡協議会で討議される。これは国立公園一律のルールではなく各国立公園の特徴を踏まえた個別の運用ルールとなる。

今後の主なスケジュール：

令和 5 年 12 月：意見を取りまとめた上、公表。

令和 6 年春頃：中央環境審議会に指定案を諮問・答申

令和 6 年夏頃：中央環境審議会の答申を踏まえ、指定等内容を官報告示

以上

2023 年度 海外委員会活動報告

昨年 5 月、コロナが季節性インフルエンザなどと同じ 5 類に移行し、海外登山も制限がなくなり自由に出来るようになりました。それに伴い満を持していくつかの海外登山、トレッキングを実行した会員もおりました。ようやく海外登山に行くことができるようになりました。今後は各会から参加者が劇的に増加するかも知れません。海外委員会としては大いに期待してやみません。

1. 活動日誌

4 月 北海道海外登山研究会後援

11 月 北海道登山研究集会 第三分科会（海外登山部門）開催

2. 北海道海外登山研究会開催

4 月には北海道海外登山研究会が 3 年ぶりに開催されました。同登山研究会は、道内で唯一海外登山を研究する団体です。各山岳団体の枠を超えた任意団体であり、海外委員会では研究会の運営等を支援しています。昨年は第 28 回目になり、講師に NHK カメラマンの米山悟氏を迎え、かでの 27 で行われました。米山氏は 1996 年にチベットのチョモラーリ峰（7321m）、98 年にはカラコルムのガツシャブルム II 峰（8035m）に登頂。また、イグルーの技術研究と普及に努め、自称イグルスキー米山として様々な発信をしている、自他とともに認める日本一の登山用イグルー実践者です。当日は具体的なイグルー作りをスライドで紹介し、出席者から多くの質問が出るなどして好評でした。また、キルギスのレーニン峰、ペルーのタウイラフ峰などの海外登山が報告されました。

3. 登山研究集会第3分科会の開催

11月には昨年に引き続き登山研究集会では第3分科会（海外登山部門）を開催できました。しかし、3年間もの期間、海外登山から離れてきたためか、またどこか様子見の気持ちが強いためか参加者が12人と例年になく少ない状況でした。

①メインテーマは「ヒマラヤ登山……目標は6000m峰！」……6000m峰は酸素が地上の半分しかないので高山病対策、高所順応やアタックなどのタクティクス（戦略）、隊の装備、食糧計画、パーティーの役割など高所登山に必須な要素がたくさんあります……なのでヒマラヤ高所登山の魅力を十分満喫できます。

②座談会「大内さんと語ろう」第2弾……昨年好評だったヒマラヤについて自由に話し合う時間を作ります。ヒマラヤへの夢、希望、熱意、疑問、歴史などなんでも話せます。大内さんは北大ワンゲルOBで、ヒマラヤ協会顧問、海外登山研究会代表、登山愛好家が集まる居酒屋「つる」の元オーナー。ヒマラヤに関しては北海道で一番詳しいといわれています。の2本立てで行いました。

しかし、今回は開催時間が1時間しかなかったため、テーマ自体は中身の濃いものでしたが、いくつかの項目を並べることだけになりました。時間に沿ったテーマを掲げる必要があったと思います。6000m峰についてはヒマラヤ登山の魅力や困難さタクティクスの作り方、高山病の克服などについて大急ぎで報告しました。

「大内さんと語ろう」は大内さんから日本のヒマラヤ登山の歴史や有名な登山家の成功と遭難、また登山に至る意気込みや計画などを生々しく伝えていただきました。そして、当時と現代との時代の差が海外登山に行きづらくしていることなどについて様々な意見が交換されました。

3. ネパール山岳地域の5万分の1地図を保管

海外委員会ではネパールの5万分の1の地図を保管しています。山岳全地域を網羅（117枚）していますので、山域やルート研究など希望のエリアを自由に閲覧できます。管理を考えて希望者にはコピーで渡していますが、本体でも可能です。大事に扱ってください。

4. 情報、資料の収集と管理、提供

海外登山の計画書、報告書を誰にでも閲覧できるようにファイルできるように考えています。そのためにも、海外登山の計画書、報告書を必ず海外委員会に提出するようお願いします。

2023 年度 連盟救助隊活動報告

今年度の救助隊の体制は基本的に 2022 年度とほぼ同様の体制で組織された。新型コロナウイルス感染症が 5 類移行となり、幹事会を対面で実施できるようになった他、3 回の訓練でもマスクなしの会話が出来たりと、相手の表情を見てコミュニケーションが取れる有難さを感じた 1 年だった。

今年度は例年通りの年 3 回の訓練と、道央連盟の遭難対策部と救助隊が協力し全国救助技術交流集会在 7 月に行われ、例年以上に活動が充実したものとなった。

また、8 月には 2015 年以来となる出動案件があり、警察と協力して要救助者 1 名を無事救助した。

以下に本年度の救助隊組織および活動内容を報告します。なお、井谷は今年度を持ちまして隊長を退く運びとなりました。至らぬことばかりでしたが、4 年間のご協力ありがとうございました。

隊長：井谷（中央）

副隊長：安藤（登攀）、板橋（北稜）、大辻（バビシェ）

会計：白石（ピオレ）

幹事：井谷、内海（中央）、大辻、松本、佐々木（バビシェ）、田中（スマイル）、白石（ピオレ）、荻野（ロシェ）、板橋（北稜）、安藤（登攀）、早坂（リベルテ）

1. 幹事会の開催

【第 1 回】2023 年 4 月 13 日 於連盟事務所

出席：井谷、白石、大辻、松本

* 春の訓練の担当決め、救助技術交流集会の担当確認。購入予定装備を確認。隊装備の棚卸、装備表の見直しと修正。

【第 2 回】2023 年 11 月 17 日 於連盟事務所

出席：井谷、白石、大辻、内海

* 来年度隊長、副隊長人事の検討。来年度購入予定装備の検討と確認。冬季訓練について担当決め。隊装備棚卸。

2. 救助隊体制構築および隊員名簿の作成

前年に引きつづき、救助訓練参加者は登録隊員を対象として実施した。

3. 救助訓練の実施

(1) 春季訓練 2023 年 6 月 24・25 日 小樽赤岩 担当：白石（ピオレ）

参加者：

25日 13名（中央4、バビシエ6、ピオレ2、スマイル1）＋オブザーバー参加2名（宮城県労働者連朋友会1、北大山岳部1）

26日 11名（中央2、バビシエ6、ピオレ2、スマイル1）＋オブザーバー参加2名

講師 阿部 恭浩氏（レスキュー3）

<訓練内容>

今回の目的は二つあった。

第一の目的：

・今年には統合運用を行うこととした。従来は、ビレイシステム、フレームと支点、各パートをテーマにした訓練が多かった。今回は要救助者を梱包(担架に載せ固定)、引上げし、搬送、を行った。12年間の訓練を通して初の試みとなるが、練度が高まっているので実行可能と判断した。

第二の目的

・今回初めて欠けていたピースを最低限つないだ形にし、訓練を通して救助の全体的なイメージを参加者に持ってもらい、7月の全国救助交流会のデモの原型とする。（記：白石）

大まかな実施内容は駐車場やお堂脇、岩場にアリゾナボーテックス（やぐら）を設置し要救助者の引き上げ、引きおろし。ストレッチャーと要救助者の固定法。ローリングベースのピックアップレスキュー（宙ぶり救助）。不安定な地形でストレッチャーを搬送するときのキャタピラ方式。等を訓練しました。

（2）秋季訓練 2023年11月18日 ノースケイブジム 担当：大辻（バビシエ）

参加者：14名（中央5、バビシエ4、ピオレ2、ロシエ1、登攀1、スマイル1）

内容 隊員のスキルアップを目的とし全隊員がピックアップレスキューの訓練を実施 TTRSの時間短縮を目的としたシステムのテスト

概要 当初、大辻の元職場にある訓練鉄塔（H鋼材による2～3階ほどの高さの鉄塔）を使用させて頂き、様々なロープワークのテストやトレーニングを行う予定だったが、前日までの天候悪化の影響を考慮し、場所を東区のノースケイブジム（ロシエ萩野氏がオーナー）での訓練に変更した。

9時頃 現地集合 9時15分 訓練開始 隊員を2パーティに分けて訓練を実施 支点の位置はそれぞれに工夫をし作成。レスキューは上部までトップロープで登ってもらい、上からはディビエーションした支点でのローダウンでアクセス。宙吊りになった要求をどのようにピックアップするのか、各班それぞれに試行錯誤していた。

11時40分 休憩 12時 訓練再開 大辻にて TTRS の時間短縮を目的としたシステムと、普段のアルパインクライミングでも役立つようなフリクションノットを説明した。午後から引き続きピックアップの訓練を再開してもらった。訓練時の支点をお借りして、時間短縮システムのテストも行った。結果としては、時間の短縮効果はあったが期待以上の結果は得られず、今後もテストを継続して検討することとした。

反省点 クラッチ（メインギアのビレイデバイス）の持込を失念した 支点の強度が 12kN 程度のポイントがあった 隊員一名がピックアップからダウン中に壁に突っ張っていた足が滑りホールドに手を打ち 少し出血した

成果 岩場などの限られた訓練場所では、時間も限られている為、重要な役割に偏りが発生するが、今回は隊員の皆さんが普段経験しない担当を体験する事により、隊全体の底上げを行うことができた（記：大辻）

（3）冬季訓練 2024年1月14日 八剣山 担当：井谷（中央）

参加者：13名（中央3、ピオレ2、登攀1、バビシェ7）

<目的>

本番を想定した、出動要請から救出までの訓練を通しでやること

<訓練内容>

①前日の出動要請メールの発出、隊装備調達

②ココヘリ親機による搜索、加温処置、ストレッチャーへのラッピング

③9mm ロープ、ATC、VT プルージックに依るツーテンションロープシステムでの要救助者引き上げ、引き下ろし

今回は各テーマに特化した訓練ではなく、雪山登山で怪我をして行動不能になった人の救助、という実際の出動を想定し、通しでやることを目的とした。搜索では労山基金100会員に無償レンタルされるココヘリ親機を使用。ココヘリ親機の説明については2022年度冬季訓練の報告に譲るが、電波が沢や尾根に遮られやすく、今回もサーチがヒットしたのが遮る尾根がなくなってから、要救助者の約200m手前からだった。地上からの搜索に使用する場合、要救助者がいる場所がほぼ分かっている時には有効だろう。

要救助者発見後はジェットボイルで湯を沸かし、加温処置を施してからストレッチャーに収容。ツーテンションロープシステムによる引き上げを行ってから、引き下げを2ピッチ実施した。搬送は時間切れで省略。

担当としては、引き下げ訓練のときに次のピッチをどう切るのか説明しないでストレッチャーを下ろしてしまったり、装備を尾根まで何回も取りに行かせてしまうなど、反省点の多い訓練となってしまった。（記：井谷）

4. 第4回全国救助技術交流集会の開催

第4回は当道央地区が担当となり、北海道で初めて開催された。

7月8、9日の2日間、小樽おこばち山荘にて道内外合わせて37名が参加し、当救助隊が採用しているロープレスキューシステムを披露し、他県連の方々と技術交流を行った。

5. 日高・ヌビナイ川右股遭難事故出動・救助

活動概要は以下の通り。詳細は 2023 年度登研論文集に掲載しています。

2023年8月13日15：10頃、8/11-13の2泊3日で日高・ヌビナイ川右股に入山していた中央労山6名パーティの50代女性会員が、尾根筋を使って下山中に40mほど滑落して負傷、自力下山できなくなった。

携帯の電波が届かない場所だったため、パーティのうち3名が先行して下山し会および警察に連絡、救助を要請した。

事故連絡を受けた時点で18：30を回っており、この日のうちのヘリ救助は無理であり、翌日以降もヘリが飛べるか微妙な天気予報のため、中央労山は直ちに救助隊の編成に取り掛かり、先発隊が出発。また、会事務所で会長と同席していた井谷は連盟救助隊出動要請を受け、応諾するとともに救助隊メーリングリストおよび一部幹事に電話にて、連盟救助隊出動要請を発出した(21：50)。

連盟事務所にて装備の準備後、8月14日午前2：30頃3名の隊員が出発。1名も追って出発した。井谷は在札の連絡係として残ることになった。

6時過ぎ、大樹町の道の駅到着、中央のメンバーと合流後車止めまで移動、出発し現場には11：30到着。12：15頃、ヘリが飛来し収容準備が始まるが視界悪化のためヘリは帰投、警察と協力して地上搬送に切り替える。斜面に横たわっていた事故者をストレッチャーに載せ、ロープで確保しながら斜面を下ろし、後は河原と林道を交代でストレッチャーを運んだ。車止め到着21：35、待機していた救急車に事故者を乗せて任務終了した。

6. 隊装備の購入、棚卸

以下のものを購入した。

- ・アラミドコード 5本
- ・安全環付きカラビナ mt.dax オーバル 8個
- ・ペツル デルタマイロン 1個
- ・ロックテリクス ラッペルリング 2個
- ・デジタル簡易無線用ロングアンテナ 4本

装備の状況は別表「救助隊装備表」のとおりです。

救助隊装備表

2023/11/17 現在

装備名	規格 名称・規格他	色	強度・効率	サイズ・メーカー —	数	備考
スタティックロープ	11mm	黒		100m	2	セミスタティックロープ
	11mm	赤	30.5kn1.9%	スターリン・50 m	1	2013年
	11mm	緑		スターリン・50 m	1	2013年

	11mm	青		スターリン・50 m	1	2013年
	11mm	黄		スターリン・50 m	1	2013年
	11mm	白		50m	2	2007年セミスタ
	11mm	赤	30.5kn1.9%	スターリン 100 m	1	2017年
	11mm	青		スターリン 100 m	1	2017年
	9mm	緑	20.0kn1.6%	スターリン 100 m	1	2022年
	9mm	青		スターリン 100 m	1	2015年
ローププロテクター	キャンパス	白			2	2015年
	カバータイプ	黒		mtクラフト	3	2010年
	セットキャタピラー				1	
	コルゲートのプロテクター	黒		自作	2	2023年傷は熱して撫でる
	消防ホース	白		自作	8	
	SMC ローププロテクター	白		SMC	1	2014年
スリング	ソウンスリング	黄色		180cm	7	
	ソウンスリング	青黄		120cm	11	
	ソウンスリング	黄色		120cm	2	
	ソウンスリング	オレンジ		120cm	2	
プルージック用スリング	パウンドループ プルージックパウンド ループ プルージックパウンド ループ プルージックパウンド ループ プルージック	赤	20kn	45cm	8	2012年
		青	20kn	60cm	8	2012年
	6mm プルージックコード	青	11.2kn	PMI 30cm	2	2015年新規購入品
	プルージックコード	赤	15.6kn	145cm	8	2012年
		青	15.6kn	170cm	8	2012年
	VT プルージック	薄茶	E20/B29.5kn	84cm	6	2021年新規購入品

	ショートパーセル	緑	12.5kn	105cm	5	2014年
	アラミドコード	黒	22kn		5	2023年
ウェビング	チューブラ 2.5cm	赤	17.8kn	7.5m	6	2012年
		橙		6.0m	5	2012年
		青		4.5m	6	2012年
		黄		3.6m	6	2012年
アンカー用ロープ スリング	8mm	赤	13.4kn	PMI10m	2	2022年
	8mm	緑		PMI10m	2	2022年
	8mm	赤	15.6kn	スターリン 10m	1	2021年
	8mm	青		スターリン 10m	5	2021年
ディッセンダー	ストップ			ペツル	2	2007年
	アイディー			ペツル	2	2011年
	リグ			ペツル	1	2013年
	レスキューエイト			SMC	1	2009年
	レスキューエイト			CMI	1	2009年
	マイクロブレーキバ ー			SMC	1	2015 新規購入品
	クラッチ	黒	22kn <71%	CMC	2	2021 購入・白石保管
	MPD	青	22kn <88%	CMC	1	2022 松本氏購入・白石保 管
	tubic	オレンジ		シモン	2	
	ATC ガイド	シルバー		BD	2	2022 新規購入
アッセンダー	レスキューセンター			ペツル	2	
プーリー	フィックス	赤		ペツル	8	
	ペツル大きなプーリ ー	青		ペツル	2	プルージックプーリー
	レスキュー	青紫		ペツル	2	P50
	PMP	赤		SMC	2	プルージックプーリー
	タンデム		10kn 71%	ペツル	2	2008 ハイライン用
	スイベル付プーリー 顎付	オレンジ	36kn 94%	ロックエキゾチ カ	2	2013
	スイベル付プーリー 無し	オレンジ	36kn 94%	ロックエキゾチ カ	2	2013
	ロールクリップ	金	20kn 85%	ペツル	2	9mm 用・2022 新規購入
	ミニ	黄	23kn 91%	ペツル	2	9mm 用・2022 新規購入
安全環付カラビナ	ジュラルミン	銀		シモン	10	2000 年以前?、10 個を在 庫
	ジュラルミン	銀		シモン	5	5 個はラッキング用に使用

	アルミ製D型	赤	32kn	キャンプ	20	2022年購入
	アルミ製D型	赤	30kn	コング	10	2020・2021年購入
	アルミ製O型	赤	26kn	コング	5	2020年購入
	アルミ製D型	赤	30kn	ロックエキゾチカ	5	
	アルミ製O型	銀	24kn	ペツル	4	艶有、旧型OK
	アルミ製O型	銀	25kn	ペツル	10	艶無、新型OK、2018購入
	スイベルカラビナ	ダークグレー	27kn	EDELRID/ISC	2	2021年購入
	オーバル	グレー		mt.dax	8	2023購入
	鉄製			大、小	2	2015年購入
その他カラビナ類	デルタマイロン		25kn	ペツル	1	2023購入
	ラッペルリング			ロックテリクス	2	2023購入
アズテック	アズテック	青	36kn		1	2014年
	アズテック	青			1	2022年購入
	アズテック	黄			1	2014年
リギングプレート	ポー(M)	青		ペツル	1	複数支点用
	ポー(L)	金	36kn	ペツル	2	2012年多数支点用
チェストハーネス	チェストエアー	黒		ペツル	3	2021年購入、黒ビナ付き
レスキューハーネス	レスキューハーネス			mt. ダックス	1	
レスキューザック	65L			グレゴリー	1	
スケッドストレッチャー		オレンジ			1	
スノーボード	2分割バスケットストレッチャ	オレンジ		スペンサー	1	冬用2分割・2022年導入
	2分割バスケットストレッチャ	オレンジ		ファーノ	1	冬用2分割・2000年以前導入?
無線機	アマチュア無線機	黒		VX-8G	3	資格:大辻 安藤 板橋
	デジタル簡易無線	黒	5W	FC-D301	2	2021購入・登録済・白石保管
	特定小電力無線機	黄黒 各2		IC-4100	4	2010年購入
	ロングアンテナ			FC-D301用	4	2023購入 白石保管
	ハンドマイク				4	2020年購入 IC4100用
ハンマードリル	ハンマードリル本体				1	本体のみ
	専用バッテリー				2	経年劣化で電圧上らず
アリゾナポーテックス	ジンポールヘッド	オレンジ			1	

	Aフレームジョイナー	青			1	
	アッパーレグ				3	
	ローワーレグ				9	
	ラプターフット				3	
	フラットフット				3	
	レグピン				17	
	ヘッドピン				4	
スナップシャックル	使用荷重 2.16kn			YA-2	1	井谷保管
ブルーシート					2	

2024 年度 活動方針(総括)

登山趣旨である優れたスポーツ文化を掲げて、登山に係る多様なニーズ(海外登山の普及・遭難事故の防止・自然を守り後世に残す)等に応えるように、道央地区連盟の各部・各委員会が活動をしていきます。

各会の皆さん、連盟行事である市民登山教室・クリーンハイク・北海道登山研究集会等にご自身の参加及びお友達を誘い、大勢で参加をお願いします。理事会においては、今後もメーリングリストで各会に情報を開示していきます。ご協力よろしくお願いします。

会員拡大

【会員数目標 800 名】

目指す会員目標は従来と変わりはありませんが、まず今年目は目先の 750 名を確保することに力を注ぎ、目標である 800 名の足固めとしたい。例年開催している市民登山教室・クリーンハイク・登山研究集会・雪崩講習会に参加される一般参加者に当連盟の特色ある各会をアピールして会員増につなげたい。

連盟と各山岳会との連携や組織の強化

【情報の発信と共有化】

- ・連盟理事会は従来通り、対面とオンライン形式での会議を実施する
- ・理事会での各部・各委員会等の議事録は、各山岳会の会長・事務局長へメーリングリストで情報開示をしていく
- ・連盟イベント等についてもメーリングリストで各山岳会の会長等に告知をし、参加を勧める

山岳事故を無くすための取組の推進

【体力づくり・術力の向上】

- ・昨年実施した「山筋ゴーゴー体操養成講座」で資格を取得した会員の方々の力を借り、所属会員の体力づくりを推進する
- ・事故報告・ヒヤリハット報告を所属各会から速やかに提出してもらい、情報開示をして事故防止の一助としていく
- ・救助隊については、年 3 回の救助訓練を実施し、不測の事態に備える

登山文化の推進と普及

【第 5 2 回北海道登山研究集会の開催】

- ・講演会は連盟所属会員以外の方々にも興味ある演題を企画立案する
- ・分科会においても旬な話題を取り上げるとともに、論文報告集の作成をする。

自然環境を守るための取組の推進

【自然保護関連事業の開催と参加】

- ・クリーンハイク、高山植物観察山行、塩谷丸山～天狗山縦走路の笹狩り等の実施
- ・大雪山・山守隊の登山道整備イベント等への参加

6 道内の他団体との連携について

- ・空沼岳～札幌岳縦走路の登山道整備

登山道整備連絡会と石狩森林局との協定書が整い次第、連絡会を開催する

- ・小樽赤岩のトイレ建て替えの要望

現段階で 2000 筆弱の署名を基に令和 6 年度の予算獲得に動いている

- ・北海道山岳団体交流会への参加

2024 年度 事務局活動方針

1. 事務局活動

1. 安定した理事会運営を図るため事務局体制のさらなる強化を目指す。
2. 理事会を引き続き定期的開催し、多くの理事に出席してもらえるよう理事への呼びかけを図りたい。また、連盟の諸活動がスムーズに実施出来るよう各部との連携・調整を図る。
3. 連盟活動の継続的な運営、効率化のため、連盟作成データの共通利用の促進とその蓄積保存を引き続き図る。
4. 連盟事務所の環境を快適に維持するため、春秋 2 回の掃除を実施する。

2. 全国連盟、他連盟、加盟団体との連絡調整

加盟山岳会との連携については、理事会議事録や全国連盟からの文書等を引き続き速やかに送付して連盟全体の情報の共有化をはかる。

3. 連盟ホームページの管理

ホームページについては、構成等をもう少しシンプルにして情報等の発信を優先したい。

4. 新日本スポーツ連盟の活動について

新日本スポーツ連盟北海道連盟に理事を派遣し、各種事業に参画する。

2024 年度 組織部活動方針

1. 市民登山教室

市民登山教室は、市民に安全で楽しい登山を普及するための活動であるとともに、『労山』の仲間を増やす取組です。会員の皆様に講師、サポーターとして協力をいただき、受講生との交流を通して各会・クラブの活動を広くPRすることに取り組む。

1) 第 45 回札幌市民登山教室

日時・会場	内 容
5月23日(木) 札幌エルプラザ	開講と机上学習① ○登山の計画と山の危険 ○基本的な登山の装備と選び方
5月30日(木) 札幌エルプラザ	机上学習② ○地形図の見方 ○実習登山のミーティング
6月1日(土) 塩谷丸山(小樽市)	実習登山(小樽塩谷丸山) ○登山の実践 ○地図の使用法の確認 等 ※予備日 6/2(日)
6月4日(火) 札幌エルプラザ	交流会 ○実習登山の反省と登山Q&A

募集人員等 30名、参加費3000円(予定)

事業の運営等について

- ①広報活動 十分な広報期間を確保し、新聞掲載、連盟ホームページ掲載とスポーツ店等へ案内チラシの設置の広報により、受講者の獲得を図る。
- ②荒天対応 実習登山の実施日を土曜とし、翌日曜を予備日とする。
- ③講義内容 対象者を登山初心者に絞り込み、「登山の基本」を中心に構成する。読図については、スマホアプリの要素を取り入れる。

2) 第 33 回小樽市民登山教室

日時・会場	内 容
5月16日(木) 小樽総合福祉センター	開講と机上学習① ○登山のための準備 ○服装と持ち物
5月21日(火) 小樽総合福祉センター	机上学習② ○地形図の見方とコンパスの使い方 ○実習登山の打ち合わせ
5月26日(日)	実習登山 小樽天狗山(お地藏さんコース) 反省会

2. 山筋ゴーゴー体操講習会

会員の体力・筋力維持が登山活動の継続に資することが期待できる。

2023年度の講習会が6会・クラブに止まったことから、今年度も引き続き体操の紹介と会内での普及を進めるための講習会を開催する。

- 1) 日 時 10月上旬
- 2) 開催場所 札幌市内
- 3) 講 師 全国連盟山筋ゴーゴー体操推進委員会からの招聘を調整
- 4) 募集人数 20名程度
- 5) 参加対象 道央連盟会員：特に2023年度山筋ゴーゴー体操サポーター養成講座未受講の会・クラブに参加いただきたい。

3. 連盟組織調査

例年通り、2024年11月末日時点での会員数等について調査する。

2024年度 遭難対策部活動方針

1. 遭難対策部 部会、担当者会議の開催

年に数回 遭難対策部員・遭難対策担当者が集まり協議する

2. 遭難事故の分析と啓蒙

各山岳会から事故報告・ヒヤリハット報告を収集し、事故の要因・分析・再発防止と啓蒙に努める。

3. 第53回 北海道登山研究集会への参画

遭難対策に関する第2分科会の担当
登山研究集会論文集の発行

4. 第30回 北海道雪崩講習会の共同開催

総合理論講座・開講式 りんゆうホール&on-line 受講：2024.11.24(日)
講師クリニック(中山峠) : 2025.01.12(日)
実習講習会事前ミーティング : 2025.01.16(木) 19:00～ on-line
実習講習会 (道央校・中山峠) : 2025.01.25(土).26(日)
(道北校・比布スキー場) : 2025.02.01(土).02(日)

5. 全国遭難対策担当者会議への参加

7月6日～7日 (東京・全国連盟事務所)

2024年度 登山文化委員会活動方針

第53回北海道登山研究集会の開催

1. 日程・会場

- (1) 講演会 : 2023年11月9日(土) 札幌教育文化会館 (中央区北1条西13丁目)
18:00～20:00
(2) 分科会 : 2023年11月10日(日) 札幌教育文化会館 (中央区北1条西13丁目)
①分科会 9:30～14:00 (昼 12:00～13:00)
②全体集会 14:30～15:00

2. 内容

- (1) 講演会 : 連盟および所属山岳会の登山文化活動に有用な内容となる講師・演目を検討する。
(2) 分科会 : 連盟各部会と連携し下記4分科会を開催。
第1分科会 (登山文化部門)
第2分科会 (遭難対策部門)
第3分科会 (海外登山部門)
第4分科会 (自然保護部門)

3. 実施体制

- (1) 登山文化委員会理事と各会から選出された実行委員により北海道登山研究集会実行委員会を構成し、開催の準備および運営を行う。
(2) 原則は5月～12月の第1水曜日に実行委員会を連盟事務所にて開催する。
(メールによる意見交換活用なども交えて、時間の効率を図る)

4. 実施に向けて

- (1) 講演会・・・・・・・・・・著名な講師候補者はスケジュールがタイトであるため、早めに候補者の選定及び受諾についての打診をする。
- (2) 論文報告集・・・・・・・・各山岳会の連盟における役割、組織的な一体感という連帯意識の共有に役立っている。
各分科会のテーマ及び内容の検討を段取りよく手筈し運営していくこと、及び引き続き登山文化という理念を維持、話題性に富む構成を心がけたい。
- (3) 懇親会・・・・・・・・・・講師＋運営委員メンバーでの開催として、事前予約制により手際よく進めていき、情報交換及びコミュニケーションの発展となるように取り計らっていきたい。

第53回目として新たな未来志向のステージを目指して、今後の活動に向けての選択肢を再検討していきます。会員相互のコミュニケーションが円滑に構築される行事としての位置付けを押し進めていきます。

2024 年度自然保護委員会活動方針

本年度実施予定の行事です。皆様のご協力をお願い致します。

1. クリーンハイク（6月16日第3日曜日）

ポケットサイズのマナー袋300枚を作成し、クリーンハイクに参加した会員の皆さんから一般登山者に配布していただき、マナーの呼びかけをしていただきますので、ご協力をお願い致します（チャック式ポリ袋にはマナーカードとゴミ袋が入っています）。なお、山菜採りの入山者が多い山域にゴミが多いので対象山域として検討していただきたくよろしくお願い致します。

2. 自然学習交流会の企画

下記のイベントを計画します。

1. 大雪山・山守隊の登山道整備イベント：随時参加予定。
2. 高山植物観察山行：伊達紋別岳でシラネアオイの観察を予定（5月18日（土））。
3. 大雪山裏旭野営指定地の携帯トイレブースの視察：日程を検討中。
4. 美瑛富士携帯トイレ用ブースの清掃活動に参加：7月20日（土）～21日（日）。
5. 塩谷丸山～天狗山縦走路の笹刈：10月19日（第3土曜日に穴滝を予定）。

3. 北海道登山研究集会

11月10日（日）第4分科会（自然保護部門）の講演会を予定しています。

2024年度海外委員会活動方針

1. 運営

各会から海外委員を選出し、海外委員会を構成、運営します。

2. 情報、資料の収集と管理

海外登山に関する情報、資料の収集と管理をし、今後の各会、会員の海外登山活動が一層活発になるよう情報を提供します。そのためには、各会が海外登山、トレッキング、フリークライミングを含めて計画書を道央連盟海外委員会に提出することをお願いします。報告書は全国で統一化されたものを使用してください。

3. 登山研究集会

2024年度北海道登山研究集会の「第3分科会 海外登山部門」の内容を検討し、資料作成や運営を担当します。

4. 講演会

会員の海外登山への関心を高めるため、講演会等の企画に取り組みます。隔年ごとに開催していますが、今年度はコロナの後の影響もあり検討中です。

5. 北海道海外登山研究会

各山岳会の枠を超えて、道内で唯一海外登山を研究している任意団体である北海道海外登山研究会が開催する集会の開催を支援し促進します。今年は4月13日（土）、午後1時～6時、かでの27で開催予定。講師は馬目弘二氏（ギリギリボーイ、第21回ピオレドール賞受賞）です。

2024 年度救助隊活動方針

2024 年度より井谷隊長に変わり連盟救助隊隊長となります、バビシェ・マウンテンクラブ 大辻と申します。引き続き、救助出動に備えた訓練と、出動時の安全かつ円滑な救助を行う為、日々精進してまいります。宜しくお願い致します。

2023 年度は、数年ぶりの救助隊出動がありました。幸い要救助者は無事に救助されました。実際には現場ではヘリでの救助が行なえず、地上部隊による救出となりました。長時間の救助に携わった隊員・及び関与された皆様におかれましては本当にお疲れ様でした。現場では、普段訓練で使用する高度なロープワークではなく、限られた装備のなか安全かつ迅速な救助を目的としたシンプルなシステムでの対応となりました。緊迫した救助活動の中で、日頃の訓練の成果が活かされた事と思います。

また今回の救助出動のなかから課題も見えてきました。2024 年度からの訓練活動に活かしてまいります。

1. 日常活動
2. 組織レスキュー・個人スキル向上の訓練
3. 幹事会の開催
4. 装備の充実と適切な管理
5. 定期訓練（日程は仮日・場所と内容は随時検討）

春季救助訓練 日程：2024 年

秋季救助訓練 日程：2024 年

冬季救助訓練 日程：2024 年

6. 装備の更新・購入の検討

- ファーストエイドキット
- AED
- 充電式ハンマードリル
- 9mm100m ロープ
- アサップロック
- アサップソーバーアクセス

北海道道央地区勤労者山岳連盟規約

資料

第一章 総則

第一条 名称

当連盟は「北海道道央地区勤労者山岳連盟」と呼び事務所を札幌市北区北10条西1丁目1番地和幸荘に置く。

第二条 加盟

- (1) 当連盟は北海道道央地区の登山、ハイキング団体によって組織され日本勤労者山岳連盟に加盟する団体で組織する。
- (2) 当連盟は北海道内の「北海道道北地区勤労者山岳連盟」「北海道道東地区勤労者連盟」と共に『北海道勤労者山岳連盟』を組織する。
- (3) 日本勤労者山岳連盟の「趣意書」及び「規約」を承認して、当連盟の承認を受けた登山団体は加盟団体となる。
- (4) 当連盟は必要と認めるときは、個人加盟をすることができる。

第二章 目的と活動

第三条 目的

当連盟は登山、ハイキングを広く一般勤労者のものとし、勤労者の立場に立脚した正しい登山、ハイキング観、登山、ハイキング理論、及び登山、ハイキング技術の普及と向上をはかり登山、ハイキング文化を充実、発展させる事を目的とする。

第四条 連盟の活動

当連盟は前条の目的を遂行するため次の活動を行う。

- (1) 未組織の登山者、ハイカーを連盟に組織する活動及び未組織地域に連盟の組織を広げる活動。
- (2) 全国的・全道的な活動の内容を加盟団体に正しく伝え、加盟団体相互の活動交流を援助する。
- (3) 山岳遭難を防止する活動を行う。
- (4) 海外登山を普及する活動を行う。
- (5) 山岳の自然を保護する活動を行う。
- (6) その他、目的遂行に必要な活動を行う。

第三章 機構

第五条 機関

- (1) 当連盟は機関として「総会」「理事会」「役員会」「役員(理事長・副理事長)選考委員会」を置く。「役員(理事長・副理事長)選考委員会」についての運営規定は別に定める。
- (2) 当連盟に専門部として「事務局」「組織部」「遭難対策部」を置くことができる。
- (3) 当連盟は委員会として「登山文化委員会」「自然保護委員会」「海外委員会」を置くことができる。
- (4) 当連盟は「救助隊」を組織する。運営規定は別に定めるものとする。

第六条 総会

- (1) 総会は毎年一回、会長が招集して開催する。
- (2) 総会は次の事項を審議し決議、承認を得なければならない。
 - 1 活動報告 2 活動方針 3 予算、決算及び会計監査報告 4 役員を選出
 - 5 規約の改定 6 その他、運営に必要な事項
- (3) 総会は代議員と役員で構成され、代議員は加盟団体より選出する。
- (4) 役員に任にある者は代議員に選出する事は出来ない。
- (5) 総会は委任状を含む代議員の三分の二以上の出席で成立する。
- (6) 選出された代議員が出席出来ない場合は委任状をもって出席とする。
- (7) 決議は委任状を含まない出席代議員の過半数の賛成を必要とする。
- (8) 規約の改廃は委任状を含まない出席代議員の三分の二以上の賛成を要する。
- (9) 会長は必要に応じて「臨時総会」を招集することができる。又、加盟団体の三分の一以上の団体から要請があった場合は、「臨時総会」を開催しなければならない。

第七条 代議員

代議員の選出は総会の前年の十一月末日をもって、会員数二十名までは二名、それ以上の会員数十名につき一名とする。

第八条 理事会

- (1) 理事会は総会に次ぐ決議機関であり、同時に連盟の執行機関である。
- (2) 理事会は総会の決議にもとづいて理事長、副理事長、理事で構成し、定期的に会議を開催する。

第九条 役員会

- (1) 「役員会」は連盟の活動上重要な問題について、総会や理事会が開催不可能な場合に開催する決議機関である。
- (2) 「役員会」は会長、副会長、理事長、副理事長、事務局長で構成する。
- (3) 「役員会」は会長が招集する。

第四章 連盟の役員

第十条 役員構成

- (1) 当連盟に役員として会長 1 名、副会長若干名、理事長 1 名、副理事長若干名、理事者若干名、会計監査二名を置く。
- (2) 当連盟は顧問を置くことができる。

第十一条 役員役割

- (1) 会長は当連盟を代表し、その活動を総理する。
- (2) 副会長は会長を補佐し、会長に事故ある場合は代行する。
- (3) 理事長は理事会の招集を行い、日常活動を執行する。
- (4) 副理事長は理事長を補佐し、かつ理事長に事故ある場合は代行する。
- (5) 理事は総会の決定事項に従い、連盟業務の執行にあたる。
- (6) 会計監査は当連盟の会計を監査し、総会に報告する。

第十二条 役員の選出

- (1) 会長、副会長は総会で推挙し、他の役員は選出する。
- (2) 任期は次期定期総会までとし、再選は妨げない。
- (3) 役員に欠員が生じた場合は、理事会は補充を行うことができる。その任期は前者の残り期間とする。

第五章 財政及び会計

第十三条 会計

- (1) 当連盟は一般会計及び特別会計を設けることができる。
- (2) 当連盟の経費は、連盟費、事業活動、その他をもってあてる。
- (3) 連盟費は前年 11 月末日現在の構成員数に 1 ヶ月 340 円を乗じた額とする。
- (4) 連盟費は原則として 3 ヶ月ごとの前納とする。
- (5) 個人加盟者の連盟費は年払い 5,000 円とする。

第十四条 会計年度

当連盟の会計年度は 2 月 1 日に始まり、1 月末日に終わる。

第六章 その他

第十五条 その他

理事会はこの規約に定められていない問題について、規約と趣意書の精神にもとづき処理することができる。

付則

- (1) 当連盟の設置は 1978 年 3 月 26 日である。
- (2) 当連盟の地域は石狩、渡島、桧山、胆振、日高、空知の各(総合)振興局管内とする。
- (3) 理事会の承認のもとにつくられた準備会は、当連盟に仮加盟することができ、その連盟費は第 13 条 3 項にもとづく額とする。
- (4) 特殊な組織形態をもつ山岳団体の連盟費は、その実情を勘案して理事会で決定することができる。
- (5) 当規約は 1995 年 3 月 6 日より実施する。
- (6) 2005 年 3 月 6 日一部改定 (第 5 条)
- (7) 2008 年 3 月 2 日一部改定 (第 13 条)
- (8) 2009 年 3 月 8 日一部改定 (第 5 条)
- (9) 2012 年 3 月 4 日一部改定 (第 1 条)
- (10) 2015 年 3 月 15 日一部改定 (第 1 条、付則)
- (11) 2017 年 3 月 5 日一部改訂 (第 5 条)

役員選考委員会運営規定

- (1) 役員(理事長・副理事長)選考委員会は加盟山岳会・クラブの代表とする
- (2) 役員(理事長・副理事長)選考委員は連盟会長が委嘱する。任期は次期定期総会までとする。
- (3) 役員(理事長・副理事長)選考委員会は、理事長、副理事長を選考し、総会に報告する。